

【表紙】

【提出書類】 半期報告書

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年12月15日

【中間会計期間】 第20期中(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

【会社名】 株式会社イーグルポイントゴルフクラブ

【英訳名】 該当事項はありません。

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 平野 岳史

【本店の所在の場所】 茨城県稲敷郡阿見町福田1668番地 5

【電話番号】 029 889 5001

【事務連絡者氏名】 事務管理課 富山 良光

【最寄りの連絡場所】 茨城県稲敷郡阿見町福田1668番地 5

【電話番号】 029 889 5001

【事務連絡者氏名】 事務管理課 富山 良光

【縦覧に供する場所】 該当事項はありません。

## 第一部 【企業情報】

## 第1 【企業の概況】

## 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期中	第19期中	第20期中	第18期	第19期
会計期間	自 平成27年 4月1日 至 平成27年 9月30日	自 平成28年 4月1日 至 平成28年 9月30日	自 平成29年 4月1日 至 平成29年 9月30日	自 平成27年 4月1日 至 平成28年 3月31日	自 平成28年 4月1日 至 平成29年 3月31日
営業収入 (千円)	358,315	372,042	416,337	745,287	745,294
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	11,060	79	54,140	26,194	20,127
中間(当期)純利益又は 中間純損失( ) (千円)	13,055	4,765	51,125	22,845	2,901
持分法を適用した場合 の投資利益 (千円)					
資本金 (千円)	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
発行済株式総数 (株)	761	761	761	761	761
純資産額 (千円)	2,321,908	2,353,045	2,411,837	2,357,810	2,360,712
総資産額 (千円)	2,515,671	2,555,165	2,647,854	2,631,652	2,684,575
1株当たり純資産額 (円)	1,081,775.53	1,129,899.94	1,220,769.02	1,137,264.98	1,141,749.84
1株当たり中間(当期) 純利益又は中間純損失 ( ) (円)	17,156.15	6,261.74	67,181.87	30,020.83	3,813.02
潜在株式調整後 1株当たり中間(当期) 純利益金額 (円)					
1株当たり配当額 (円)					
自己資本比率 (%)	92.3	92.1	91.1	89.6	87.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	72,351	51,871	3,023	75,122	84,216
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	10,013	11,160	63,908	21,865	16,318
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,055	2,459	4,122	6,111	6,636
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高 (千円)	686,087	753,161	808,858	818,652	879,913
従業員数 (人)	117	113	107	116	113
(内、平均臨時雇用者数)	(39)	(35)	(35)	(38)	(37)

(注) 1 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、中間連結会計期間等に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 営業収入には、消費税等は含まれておりません。

3 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

4 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在していないため記載しておりません。

## 2 【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 3 【関係会社の状況】

該当事項はありません。

## 4 【従業員の状況】

### (1) 提出会社の状況

平成29年9月30日現在

従業員数(人)	107(35)
---------	---------

(注) 従業員数は就業人員(常用パートを含む)であり、臨時雇用者数(人材会社からの派遣社員、季節工を含みます)は、当中間会計期間の平均人員を( )内に記載しております。

### (2) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりません。また、労使ともに円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【業績等の概要】

#### (1) 業績

当中間会計期間における、わが国経済は、政府の各種政策による雇用・所得環境の回復から個人消費や企業収益が改善していることに加え、海外経済の成長に伴い輸出が増加基調にあるなど、緩やかな回復を続けております。

当社が属するゴルフ業界は、ゴルフ人口の減少やゴルフプレー層の高齢化等の問題を引き続き有しており、若年層プレーヤーの獲得や年齢に応じたプレースタイルの拡充等、ゴルフの更なる普及に向けた取り組みの重要性が増しております。

このような状況のもと、当社は昨年に続き7月にLPGAレギュラーツアー「Samantha Thavasa Girls Collection Ladies Tournament」を開催し、かつてない華やかな演出を主催者と一体となり実現させ、全国的にゴルフ場のクオリティーの高さと“おしゃれ”なゴルフ場としての知名度が更に向上しております。この効果は、都心よりわずか50km、インターチェンジより3分という利便性の良さも相乗効果として認知され、メンバー紹介予約へ大いに繋がりが好調の兆しを実感できております。また、この築き上げた様々な基盤に、あくまでも独自路線であるエクスクルーシブなクラブのスタイルを崩さず、期待を裏切らない人的サービスに磨きをかけ、顧客満足度に裏打ちされた高付加価値のもと客単価の維持・向上に努め品質と適切な経費コントロールのもと財務体質の強化に邁進しました。

これらの結果、当中間会計期間の営業収入は416,337千円(前年同期比11.9%増)、営業利益は53,174千円(前年同期は1,353千円の営業損失)、経常利益は54,140千円(前年同期は79千円の経常損失)、中間純利益は51,125千円(前年同期は4,765千円の中間純損失)となっております。

#### (2) キャッシュ・フロー

当中間会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、有形固定資産を取得したこと等に伴い、前事業年度末に比べ、71,054千円減少し、808,858千円となりました。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は、3,023千円(前年同期は51,871千円の支出)となりました。これは主に、税引前中間純利益52,772円を計上したことに加え、前受金の減少額71,199千円が生じたこと等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、63,908千円(前年同期は11,160千円の支出)となりました。これは、有形固定資産の取得による支出63,887千円が生じたことによるものであります。

##### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は4,122千円(前年同期は2,459千円の支出)となりました。これはリース債務の支払4,122千円が生じたことによるものであります。

## 2 【来場者数及び営業収入の状況】

### (1) 来場者数

当中間会計期間のゴルフ場総来場者数を示すと、次のとおりであります。

事業所の名称	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)			
	営業日数 (日)	総来場者数 (人)	営業収入 (千円)	前年同期比 (%)
イーグルポイントゴルフクラブ	173	12,821	416,337	111.9

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### (2) 受注実績

当社はゴルフ場経営のため、該当事項はありません。

### (3) 販売実績

当中間会計期間における販売実績を営業収入別に示すと、次のとおりであります。

営業収入別	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)	前年同期比 (%)
プレー収入(千円)	179,381	98.8
レストラン・売店収入(千円)	72,429	99.7
年会費・入会金収入(千円)	137,950	148.9
その他(千円)	26,576	105.9
合計(千円)	416,337	111.9

(注) 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

### 3 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

当中間会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### 4 【事業等のリスク】

当中間会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 5 【経営上の重要な契約等】

当中間会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

### 7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

「1 業績等の概要 (1) 業績」を参照願います。

#### (2) 財政状態の分析

##### 資産

当中間会計期間末の資産合計は、前事業年度末に比べ36,721千円減少し2,647,854千円となりました。これは主に、現金及び預金が71,055千円減少したことによるものです。

##### 負債

当中間会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べ87,846千円減少し236,017千円となりました。これは主に、前受金が71,199千円減少したことによるものです。

##### 純資産

当中間会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べ51,125千円増加し2,411,837千円となりました。これは、中間純利益の計上51,125千円によるものです。

#### (3) キャッシュ・フローの状況の分析

「1 業績等の概要 (2) キャッシュ・フロー」を参照願います。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【主要な設備の状況】

当中間会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

#### 2 【設備の新設、除却等の計画】

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	1,000
優先株式	600
計	1,600

##### 【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (平成29年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年12月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	647	647	非上場・非登録	当社は単元株制度は採用して おりません。
優先株式	114	114	同上	(注)
計	761	761		

(注) 1 優先株式は正会員として1株を1口として所定のゴルフ場の施設等を利用できるものとする。

#### 2 ゴルフ場の利用権

当該優先株式を有する株主は、株式会社イーグルポイントゴルフクラブが定める規約に基づき手続き完了後、優先株式を有する株主はイーグルポイントゴルフクラブ正会員として所定のゴルフ場の施設等を利用することができる。

#### 3 種類株式の残余財産の分配及び議決権

- (1) 当社は残余財産の分配を行うときは、優先株式1株につき10,000,000円又は払込金額相当額(入会金・名義変更料は含まない)のいずれか高い金額までは普通株式を有する株主に先立ち分配を行う。
- (2) 優先株式の株主に対しては、前項のほか、残余財産の分配を行わない。
- (3) 優先株式の株主は、株主総会における議決権を有しない。
- (4) 優先株式の株主は、株式の分割および新株式、新株予約権または新株予約権付社債の発行を行うとき、これらの引受権は有しない。
- (5) 当社の優先株式に関する会社法第199条第1項の決定については、優先株式の株主を構成員とする種類株主総会の決議を要しないものとする。
- (6) 当社の優先株式における種類株主総会の普通決議の定足数は総優先株主の議決権の4分の1とする。
- (7) 当社の優先株式における種類株主総会の特別決議の定足数は総優先株主の議決権の3分の1とする。

#### 4 株式の譲渡制限

定款第8条に基づき株式会社イーグルポイントゴルフクラブの取締役会が承認した場合のみ可能とする。

#### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の状況】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年9月30日	-	761	-	100,000	-	25,000

## (6) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社東京ウェルズ	東京都大田区北馬込 2 28 1	120	15.77
株式会社ヒラノ・アソシエイツ	東京都渋谷区道玄坂 1 15 3	69	9.07
熊谷正寿	東京都港区	67	8.80
西山知義	東京都目黒区	67	8.80
重田康光	東京都港区	66	8.67
有限会社キイ・ライン	東京都千代田区永田町 2 14 13	66	8.67
フィールズ株式会社	東京都渋谷区円山町 3 6	66	8.67
寺田和正	東京都新宿区	66	8.67
野尻佳孝	東京都港区	60	7.88
計	-	647	85.02

(注) 株式総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

なお、所有株式に係る議決権の個数の多い順上位10名は、以下のとおりであります。

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有議決権数 (個)	総株主の議決権に対する 所有議決権数の割合(%)
株式会社東京ウェルズ	東京都大田区北馬込 2 28 1	120	18.55
株式会社ヒラノ・アソシエイツ	東京都渋谷区道玄坂 1 15 3	69	10.66
熊谷正寿	東京都港区	67	10.36
西山知義	東京都目黒区	67	10.36
重田康光	東京都港区	66	10.20
有限会社キイ・ライン	東京都千代田区永田町 2 14 13	66	10.20
フィールズ株式会社	東京都渋谷区円山町 3 6	66	10.20
寺田和正	東京都新宿区	66	10.20
野尻佳孝	東京都港区	60	9.27
計	-	647	100.00

(注) 総株主の議決権に対する所有議決権数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	優先株式 114		
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 647	647	
単元未満株式			
発行済株式総数	761		
総株主の議決権		647	

## 【自己株式等】

該当事項はありません。

## 2 【株価の推移】

## 【当該中間会計期間における月別最高・最低株価】

当社株式は非上場・非登録であるため、該当事項はありません。

## 3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当半期報告書の提出日までの役員の異動はありません。

## 第5 【経理の状況】

### 1 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和52年大蔵省令第38号)に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の中間財務諸表について明神監査法人の中間監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

第19期事業年度の財務諸表	公認会計士 菊地 隆 氏
	公認会計士 深井 一弘 氏
第20期中間会計期間の中間財務諸表	明神監査法人

### 3 中間連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、中間連結財務諸表を作成しておりません。

## 1 【中間財務諸表等】

## (1) 【中間財務諸表】

## 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当中間会計期間 (平成29年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	879,913	808,858
売掛金	24,821	24,478
商品	18,520	18,080
貯蔵品	5,452	7,401
前払費用	10,187	21,128
その他	827	22
流動資産合計	939,723	879,971
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1 255,089	1 250,193
構築物（純額）	1 400,420	1 400,223
機械及び装置（純額）	1 22,014	1 21,390
車両運搬具（純額）	1 257	1 3,736
工具、器具及び備品（純額）	1 12,048	1 13,912
リース資産（純額）	1 25,490	1 21,760
土地	1,011,082	1,026,621
建設仮勘定	12,671	24,405
有形固定資産合計	1,739,076	1,762,244
無形固定資産		
その他	1,472	1,314
無形固定資産合計	1,472	1,314
投資その他の資産		
その他	4,303	4,325
投資その他の資産合計	4,303	4,325
固定資産合計	1,744,852	1,767,883
資産合計	2,684,575	2,647,854
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,608	5,026
未払金	28,283	11,296
未払費用	32,302	36,961
未払法人税等	3,294	1,647
未払消費税等	6,813	2 9,255
前受金	174,017	102,818
預り金	3,598	7,008
リース債務	7,522	6,680
賞与引当金	20,277	14,972
その他	541	502
流動負債合計	282,259	196,167
固定負債		
退職給付引当金	19,119	20,645
リース債務	20,294	17,014
その他	2,190	2,190
固定負債合計	41,603	39,849
負債合計	323,863	236,017

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当中間会計期間 (平成29年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金		
資本準備金	25,000	25,000
その他資本剰余金	2,072,206	2,072,206
資本剰余金合計	2,097,206	2,097,206
利益剰余金		
利益準備金	1,830	1,830
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	161,675	212,800
利益剰余金合計	163,505	214,630
株主資本合計	2,360,712	2,411,837
純資産合計	2,360,712	2,411,837
負債純資産合計	2,684,575	2,647,854

## 【中間損益計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 9月30日)
営業収入	372,042	416,337
営業費用	373,395	363,163
営業利益又は営業損失( )	1,353	53,174
営業外収益		
受取利息	3	3
その他	1,279	1,304
営業外収益合計	1,282	1,308
営業外費用		
支払利息	6	219
その他	2	123
営業外費用合計	8	342
経常利益又は経常損失( )	79	54,140
特別損失		
固定資産除却損	3,038	-
撤去費用	-	1,367
特別損失合計	3,038	1,367
税引前中間純利益又は税引前中間純損失( )	3,118	52,772
法人税、住民税及び事業税	1,647	1,647
法人税等合計	1,647	1,647
中間純利益又は中間純損失( )	4,765	51,125

## 【中間株主資本等変動計算書】

前中間会計期間(自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	100,000	25,000	2,072,206	2,097,206
当中間期変動額				
中間純利益又は中間純損失( )				
当中間期変動額合計				
当中間期末残高	100,000	25,000	2,072,206	2,097,206

	株主資本				純資産合計
	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	株主資本合計	
		繰越利益剰余金			
当期首残高	1,830	158,773	160,603	2,357,810	2,357,810
当中間期変動額					
中間純利益又は中間純損失( )		4,765	4,765	4,765	4,765
当中間期変動額合計		4,765	4,765	4,765	4,765
当中間期末残高	1,830	154,008	155,838	2,353,045	2,353,045

当中間会計期間(自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 9月30日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	100,000	25,000	2,072,206	2,097,206
当中間期変動額				
中間純利益又は中間純損失( )				
当中間期変動額合計				
当中間期末残高	100,000	25,000	2,072,206	2,097,206

	株主資本				純資産合計
	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	株主資本合計	
		繰越利益剰余金			
当期首残高	1,830	161,675	163,505	2,360,712	2,360,712
当中間期変動額					
中間純利益又は中間純損失( )		51,125	51,125	51,125	51,125
当中間期変動額合計		51,125	51,125	51,125	51,125
当中間期末残高	1,830	212,800	214,630	2,411,837	2,411,837

## 【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 平成28年 4月 1日 至 平成28年 9月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年 4月 1日 至 平成29年 9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失( )	3,118	52,772
減価償却費	23,291	25,379
固定資産除却損	1,844	-
賞与引当金の増減額( は減少)	267	5,305
退職給付引当金の増減額( は減少)	1,635	1,526
受取利息及び受取配当金	3	3
支払利息	6	219
売上債権の増減額( は増加)	2,636	343
たな卸資産の増減額( は増加)	867	1,509
仕入債務の増減額( は減少)	1,564	582
未払費用の増減額( は減少)	372	4,658
前受金の増減額( は減少)	71,514	71,199
未払金の増減額( は減少)	647	1,574
預り金の増減額( は減少)	274	3,410
未払消費税等の増減額( は減少)	3,787	2,442
その他	10,609	10,090
小計	49,344	486
利息及び配当金の受取額	3	3
利息の支払額	6	219
法人税等の支払額	2,523	3,294
営業活動によるキャッシュ・フロー	51,871	3,023
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	11,160	63,887
その他	-	21
投資活動によるキャッシュ・フロー	11,160	63,908
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
その他	2,459	4,122
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,459	4,122
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	65,491	71,054
現金及び現金同等物の期首残高	818,652	879,913
現金及び現金同等物の中間期末残高	1 753,161	1 808,858

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

評価方法は最終仕入原価法によっております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定額法(ただし、機械及び装置については定率法)

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	3～45年
構築物	5～65年
機械及び装置	2～18年
車両運搬具	2～7年
工具、器具及び備品	2～10年
リース資産	5～6年

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

3 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えて、賞与支給見込額の当中間会計期間負担分を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る中間期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

4 中間キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

5 その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(中間貸借対照表関係)

## 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当中間会計期間 (平成29年9月30日)
	958,211千円	983,208千円

## 2 消費税等の取扱い

仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債の「未払消費税等」に含めております。

(中間損益計算書関係)

## 減価償却実施額

	前中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
有形固定資産	23,113千円	25,221千円
無形固定資産	178千円	157千円

(中間株主資本等変動計算書関係)

前中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間末 株式数(株)
普通株式(株)	647	-	-	647
優先株式(株)	114	-	-	114
計	761	-	-	761

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

該当事項はありません。

当中間会計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当中間会計期間 増加株式数(株)	当中間会計期間 減少株式数(株)	当中間会計期間末 株式数(株)
普通株式(株)	647	-	-	647
優先株式(株)	114	-	-	114
計	761	-	-	761

2 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

3 配当に関する事項

該当事項はありません。

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
現金及び預金勘定	753,161千円	808,858千円
現金及び現金同等物	753,161千円	808,858千円

(リース取引関係)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

(金融商品関係)

前事業年度(平成29年3月31日)

平成29年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	879,913	879,913	-

(注) 金融商品の時価の算定方法

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

当中間会計期間(平成29年9月30日)

平成29年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。

(単位：千円)

	中間貸借対照表計上額	時価	差額
現金及び預金	808,858	808,858	-

(注) 金融商品の時価の算定方法

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(有価証券関係)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

当社はデリバティブ取引を全く利用しておりませんので、該当事項はありません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(持分法損益等)

関連会社が存在しないため該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

前中間会計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

当社は、ゴルフ場の経営を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当中間会計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)

当社は、ゴルフ場の経営を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり純資産額並びに1株当たり中間純利益金額又は1株当たり中間純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成29年3月31日)	当中間会計期間 (平成29年9月30日)
(1) 1株当たり純資産額	1,141,749.84円	1,220,769.02円

項目	前中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年9月30日)
(2) 1株当たり中間純利益金額又は 中間純損失金額( )	6,261.74 円	67,181.87円
(算定上の基礎)		
中間純利益又は中間純損失( )(千円)	4,765	51,125
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る中間純利益又は 中間純損失( )(千円)	4,765	51,125
普通株式の期中平均株式数(株)	761	761

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## (2) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の参考情報】

当中間会計期間の開始日から半期報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度(第19期)(自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日)

平成29年6月27日関東財務局長に提出。

(2) 臨時報告書

平成29年12月14日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の4(会計監査人の異動)に基づく臨時報告書

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の中間監査報告書

平成29年12月11日

株式会社イーグルポイントゴルフクラブ  
取締役会 御中

### 明神監査法人

指定社員	中井 義己
業務執行社員	
指定社員	菊地 隆
業務執行社員	

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社イーグルポイントゴルフクラブの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第20期事業年度の中間会計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、中間キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要な応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社イーグルポイントゴルフクラブの平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間(平成29年4月1日から平成29年9月30日まで)の経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する有用な情報を表示しているものと認める。

#### その他の事項

会社の平成29年3月31日をもって終了した前事業年度の間会計期間に係る中間財務諸表及び前事業年度の財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって中間監査及び監査が実施されている。前任監査人は、当該中間財務諸表に対して平成28年12月12日付けで無限定有用意見を表明しており、また、当該財務諸表に対して平成29年6月15日付けで無限定適正意見を表明している。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1．上記は中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2．XBRLデータは中間監査の対象には含まれていません。